

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念は、職員の目のつく場に掲示し、その理念に込められた思いを忘れないようにしている。また、会議の席上で確認するようにしている。	理念についてホール内の目につく数ヶ所に掲示し来訪者にも分かるように工夫されている。家族に対し利用契約時希望等を聞くと共に理念についても説明している。職員会議で振り返りの場を持つと共に、新入職員には資料を配布し指導している。職員も向上心を持ち利用者にとって何が一番大事かを模索しながら支援に取り組んでいる。理念にそぐわない言動があった場合、管理者や計画作成担当者が職員と話をする機会を持つようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の敬老会などには毎回参加させて頂いてる。その他、地域のボランティアの受け入れも積極的に行うようにしており、施設の可視化に努めている。	区費を納め地域の一員として活動している。地域の一斉清掃に参加し、地区の行事について区長より連絡を頂き、文化祭や敬老会等、参加出来る行事に参加している。腹話術、カラオケ、マジックショーなどのボランティアの来訪も有り交流を深めている。高校生の職場体験も引き続き受けている。ホーム便り「サンライズ里山辺新聞」に合わせブログにホームと利用者の様子を掲載し遠方の家族にも喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営会議の折などに、地域包括支援センター職員から認知症に対する助言・指導を頂き、会議に出席している委員と共に学習させて頂いた事を、今度は地域へ発信して頂いていると考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度より、構成委員に同業者が参加するようになり、互いの良い点を確認しあい、日々の業務に取り入れるようにしている。参加している委員からは、今まで以上に、施設全体で風通しが良かったとの言葉を頂いている。	利用者代表、家族代表、町会長、民生委員、地域の知見者、地域包括支援センター職員など総勢10数名の参加を得て奇数月の最終金曜日に開催している。午前10時より行われ、活動報告、状況報告、行事等の検討、意見、要望、助言を頂き、ほぼ2時間活発な意見交換をし運営の向上に役立っている。また、本年11月には運営推進会議メンバーに参加していただき防災訓練を予定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に一回の相談員の派遣があり、利用者の話に耳を傾けて頂いている。困難事例などがあった折には、地域包括支援センターに相談にのってもらっている。	市の地域包括支援センターには様々な事柄について相談し、介護保険の仕組みについて勉強会を行い講師を務めていただいた。介護相談員の来訪が月1回、2時間ほどあり、4年間同じ方が担当しているということもあり利用者と一緒に話し合い報告も口頭であり支援に役立っている。介護認定更新調査は家族に連絡の上ホームにて実施している。更に居宅介護支援センターを介し市内の総合病院との連携も取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	作成してあるマニュアルを職員間で常に確認するようにしている。例えばベッド柵などでも拘束にあたるので、家族への説明責任を果たすようにしている。	玄関は安全確保のため施錠している。離脱傾向の強い利用者に対してはストレスが溜まらないよう希望に合わせ外に出掛けるようにしている。現在、転倒、転落防止を図るため家族に相談し同意書をいただき柵を使用している方や転倒防止を図るためセンサーマットを使用している方がいる。拘束について職員会議で話し合いを重ね家族から見た時どう思うかを考え声掛け等忘れがちなことを確認し合っている。	

グループホームサンライズ里山辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待予防の研修等には積極的に参加しており、職員間で勉強会を開いている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	責任者は機会あるごとに研修等に参加して知識を得ている。現在、2人制度を利用している方がいてその法人と連絡を密にとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間をとって説明している。利用料金、起こりうるリスク、看取りについてなど当事業所の考え、ケアに関する取り組みについても説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情設置箱を玄関フローに置いている。家族の意見を聞き、苦情を受けたときは、発生原因を探り、検討して改善に向けている。職員会議で報告を聞き、意識を高めている。	家族とは年1回、様々なことについて話し合う時間を設けて確認し合いより良い支援に繋げている。家族の来訪は週1回から遠方の方の年に数回までとそれぞれの都合で様々であるが、全家族の来訪がある。家族会は敬老会の際に行われ、事業報告を行った後、食事会を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを月1回、また、勉強会を適時開き、意見を聞いている。日ごろからコミュニケーションを図り、聞く機会を設けている。	職員会議を月1回、第1月曜日の午前9時30分より行い、様々な意見を出し合い支援の向上に役立てている。人事考課制度があり、年2回法人の本部長による個人面談が行われ職員の意識の向上に取り組んでいる。歓送迎会、忘年会等も行い職員間のコミュニケーションアップを図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も月1回の職員会議や、適時開く責任者会議に参加を心がけている。職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意思を重視しながら職場内で活かせる労働環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修になるべく多くの職員が受講できるようにして、それらの研修報告をミーティング等にて伝達講習をしている。また法人内で研修を行って互いに切磋琢磨する仕組みが出来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本年度より、同業他社の管理者に運営推進会議の構成委員になってもらい、互いにサービスの質の向上の為の助言を得ている。		

グループホームサンライズ里山辺

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に家庭や施設に訪問面談を行い、ご本人様、ご家族様の思いや生活状況を把握し、入居時には安心していただけるよう努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームでは、どのような対応が出来るのか事前に話し合いをしている。ご家族の立場に立ち、話をしっかり受け止めながら関係を築くように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の事前相談では、必ずご本人にとってグループホームでの生活やケアが最善であるのか慎重に見極める努力をしている。また、面接には管理者、計画作成担当の2名で赴くようにし契約までの間を迅速にするように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にするという共有の意識の中で、人として先輩を敬い、生活の中で楽しみや生きがいを感じていただけるよう努力している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご利用者様を自分の家族と同じように思っていることを伝え、ここに来て良かったと言ってもらえるように努めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との絆を実感していただくため、定期的な面会や、外出、外泊などを家族と相談しセッティングしている。また馴染みの場所などへの外出は、出来るだけこたえるように関係性が途絶えることがないように支援している。	教え子や近所の方の来訪がありお茶を飲みながら親しく話をされている。電話を希望する方には家族了解の下、職員がお手伝いをしている。独居から入所の方いるが家を見たいとの希望に沿い職員がお連れしている。また、買い物の希望についても職員が同行し楽しまれている。職員が中に入り利用者同士の良い関係作りに関心掛け、仲の良い方同士で双方の居室を行き来し楽しまれている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が自然に助け合い、喜び悲しみを分かち合えるよう支援している。時に応じて利用者の中に職員が入り繋ぎの役目をするように支援している。	

グループホームサンライズ里山辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた方にも、その後の様子を聞いたり、ご家族の話聞いて相談に応じている。また時間が許せば、面会に行かせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の暮らしの中で、話を聞いたり、積極的に話しかけている。また、あまり話したがない利用者様には、ご家族から話を聞いて把握しようと努めている。	ほとんどの利用者は意思表示が出来る。利用者の生活歴について家族や友人より聞いたことを個人ファイルに纏め、本人の意向に沿った支援に繋げるように取り組んでいる。職員による利用者の担当制を取っているため居室で身の回りの世話をしたり、入浴の時間等で1対1で話をし、意向の把握に努め支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談の中で、ご本人様、ご家族に聞いて把握に努めている。また、入所後も日々の会話の中からヒントを得られるよう心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者それぞれの生活リズムを理解し、行動や小さな動作、表情などから読み取れるよう心がけている。生活を共にする中で、心身の状態や出来ること出来ないことを察知するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間でのカンファレンス、アセスメントを経て、ケアプランの作成、変更を行っている。家族様へは作成したケアプランの確認・署名を貰っている。	職員は1名の利用者を担当している。本年5月にプランの見直しを集中的に行い現在に至っている。モニタリングはカンファレンスで行い、日々の状況は個別の週間記録に書面で落とし込み話し合い、管理者と計画作成担当者がプランを作成している。基本的には6ヶ月に1回見直しがされ家族に報告し同意をいただいている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本年度は、より利用者様の状態が分かるように記録用紙の見直しを行い、ケアプランへ反映できるようにした。また毎日のミーティングの中で、記録、情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族の状況に応じ、通院支援や、外出(買い物等)を行っている。2F/3Fの職員が、その時々によって協力し合い、ご利用者に対応している。		

グループホームサンライズ里山辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方たちによる、ピアノとソプラノコンサートやマジックショー、カラオケコンサートなどに来ていただき、日々職員の足りない部分を支援していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医には、月1回の往診をお願いしている。体調不良の時は、訪問看護に相談後、主治医の往診・受診を行っている。その後、家族への連絡も怠らないように努めている。	若干名の方を除き利用者についてはホーム協力医の月1回の往診と毎週火曜日の訪問看護師の来訪で対応している。本年度から非常勤の看護師が勤務するようになり、日常の健康管理などの様々な相談に乗っていただくことで医療面での安心感が増している。歯科受診の希望があれば職員がお連れしている。緊急管理面では管理者が2階、計画作成担当者が3階を担当し、万全の体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と医療連携をとり、週1回の定期訪問の他、24時間体制をとり、訪問の際には各利用者の健康管理、適切な医療サービスが受けられるよう支援している。本年度から、非常勤だが看護師が入職したので、医療面での支援が手厚くなった。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	ご利用者様が入院したときは、面会を重ね、病院の相談員とも連携をとり情報の交換に努めている。家族とも連絡を密に連携し支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、当施設の重度化した場合と終末期について説明はしているが、話し合いの機会を重ねて方針を明確にしていきたいと思っているが、法人内の系列事業所との連携が可能になったことで、移設や医療面でも相談援助など利用者様にとっては選択肢が広がっている。	重度化や終末期の対応についての指針があり利用契約時に説明し家族の意向を聞き支援に取り組んでいる。現法人に経営が移り状況に応じ法人内での他の施設への住み替え可能となり家族に与える安心感も増しており、現在、進行中の利用者もいる。本年、家族、医師、看護師と連携を取りながら1名の方の看取りを行った。職員に対しては非常勤看護師より「最期を迎えるためのケア」について助言を頂き不安の解消等にも努めた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、夜間時の緊急対応をしている。また、消防署の指導のもと、心肺蘇生の研修会も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年7月に火災訓練をした。平成23年12月運営推進会議において、地域と防災協定の締結を結ぶことが出来た。また、本年度から、地域の協力も得て、防災避難訓練も実施する予定である。	年2回、3月と10月に防災訓練を行っている。消防署員参加の下、通報訓練、初期消火訓練などを行い避難誘導訓練では消防署の指示で利用者をベランダに移動させ訓練を行った。また、今後は更に元気な方については階段を使つての避難訓練を行う予定にしている。災害時電話が不通になることを考えメールの「LINE」の活用を検討し、また、緊急連絡網の抜き打ち訓練も実施する予定である。	

グループホームサンライズ里山辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者それぞれの性格や個性に合わせ、プライドやプライバシーを損ねることがないようにミーティングや職員会議で話し合い確認している。	職員会議やミーティングの際、尊厳、プライバシーの保護に付いて話し合い認識を高めている。「親しき仲にも礼儀あり」と日々の言葉遣いに特に気をつけている。入室の際にも声掛けとノックをし、入るようにしている。トイレのドアの開け閉めにも気を使い、入浴中には「入浴中」の札を掛けるようにしている。呼び方は利用者の希望を聞き、「さん」付けて敬意を込めてお呼びしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の立場から、その時々に応じ選択の幅を広げられるよう、声かけや気持ちを考え行っている。また認知症研修などに積極的に参加して、利用者の思いを汲み取れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、1人ひとりの体調や気持ちに配慮しながら、そのときの希望を取り入れ、個々の流れは多少違っていても、それぞれが上手く溶け合えるような時間の流れを作れるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の身だしなみは、本人の好みで支援している。化粧品の買い物などは職員と買いに出かける方もいる。2ヶ月に1度訪問理容に来てもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けなど出来る利用者様も年々少なくなっている現状ではあるが、出来るだけ自分の役割意識を持ってもらえるよう支援している。また、時に2F、3Fと一緒に食事作りをする楽しんで食べていただく工夫をしている。	家庭的な雰囲気を出すように心掛け職員も介助しながら一緒にゆっくり食事の時間を取るようにしている。常食の方が多いが、食形態がトロミ・キザミの方、全介助の方もいる。週1回、2・3階共同で利用者も参加し食事を作り、カレー、シチュー、焼きそば、トン汁等を楽しんでいる。日々の献立や食材は納入業者よりの高齢者メニュー、レシピで対応している。15時のおやつにはヨーグルトなどを出し排便にも配慮している。誕生日には手作りケーキでお祝いし、行事の際には特別弁当を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	高齢者の体調不良は脱水が原因であることが多く協力医からの指導もあり一日の水分量には注意している。献立は栄養バランスを考慮した物を提供している。近年、体重が増加傾向であった方の食事の見直しも行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた口腔ケアを行っている。就寝時には、義歯洗浄剤を使用している。また、口腔ケアの大切さを、研修報告や勉強会などで職員に伝えている。		

グループホームサンライズ里山辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、促し、誘導を行いトイレで排泄できるよう支援している。それにより、脱オムツに移行できるように取り組んでいる。	自立の方が三分の一で他に介助を必要とする方もおり、布パンツ使用の他、オムツ、パット、リハビリパンツ等を使用している。一人ひとりの排泄パターンを掴み排泄状況確認表に記録し各居室に掲示することで全職員が共有し支援に当たっている。オムツメーカーとタイアップし脱オムツと費用の削減にも取り組んでいる。人前で失敗した場合には他の利用者にわからないように誘い、お風呂等でも対応することもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	特に水分摂取量に気をつけている。食事面では、繊維質の多い野菜などを多くとるように努めている。また、足踏み運動や散歩など軽い身体運動を毎日取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を確保するように努めている。それ以外では、本人の希望や状況に合わせて、シャワー浴も行っている。	全利用者が介助を必要としており、家族の介助を受けながら入浴している方もいる。拒否する方はおらず週2回の入浴を楽しみ、また、外の景色を見ながら足浴を楽しむ時もある。季節に合わせて菖蒲湯、ゆず湯、リンゴ湯等も行っている。更に、希望により近くの温泉に出掛けることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量に配慮し、生活リズムを整えるようにしている。加齢とともに体力の落ちている方には、声かけし本人の意思に沿って休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬はその都度、ご本人と名前を確認し、内服している。状態の変化時には、訪問看護、協力医療機関との連携が図れている。また、服薬管理表を作り記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の中で、自然と役割ができ、体調を見ながら一緒に行うという充実感を味わっていただいている。また、利用者間でその日、何の歌を歌うのかと決めたり、散歩、体操等気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節感を感じられるよう、桜観賞、紅葉、祭りなど外出を支援している。天気の良い日には、散歩や外気浴をしに外に出て、季節を感じていただいている。また、本人の希望に応じ、ドライブや買い物など外出支援も行っている。	天気の良い日には玄関前に出て外気浴をしたり花を見て楽しんでいる。また、8月の花火大会をベランダにて観賞することが恒例行事となっている。行事係がいて年間の行事計画の中で花見、紅葉狩り等に出掛けている。更に、少人数に分かれドライブに出掛けコンビニでアイスクリームを食べたり、ワイナリーで野菜を購入しジュースを飲んだりして楽しんでいる。家族と外食に出掛ける利用者もいる。	

グループホームサンライズ里山辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の中で、「洗濯をしてもらったお金を払わなくては」と訴える人もおり、ご家族に支払いをしていただいていると説明する場面も時々ある。可能な方には、所持していただき買い物に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様からの希望があるときや、家の事を不安に思っている方など電話し、その時の状況に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常生活の音、季節の香り、目で楽しむことなどを、リビングや日常の生活の中に取り入れ工夫している。	1日の大半を過ごすホールは掃除が行き届き清潔である。そのような中、食卓テーブルの椅子に腰かけ談笑し歌を歌う利用者の姿が見られた。また、大きなソファが置かれた寛ぎのスペースも広く、用意されたテレビを見たり、廊下を歩いたりして1日を送っている。壁には敬老会の写真や自らの作品が飾られている。空調は全館にエアコンと床暖房が設置され快適な環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにテレビ、ソファを置き、自由に使えるスペースを確保して、それぞれ思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物や写真など馴染みの物を持ち込まれ、居心地良く過ごせるよう配慮している。	掃除が行き届いた綺麗な環境の中で思い思いの生活を送っている。使い慣れた家具や衣装ケース、テレビ、位牌などが置かれ、家族の写真、敬老会時にホームより送られた感謝状などを壁に張る方、自分の好きな歌手のポスターを何枚も壁に飾っている方など、一人ひとりが自由な生活を送っていることが窺えた。各ユニットとも一人ひとりの利用者の状況に合わせた環境作りに配慮し支援に取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの心身状態を理解、把握し工夫するよう心がけている。混乱が続くような時は、その原因を職員一同で話し合い取り除けるよう環境の整備に努めている。		